



**R**  
RITSUMEIKAN

# RS

Ritsumeikan Style **SPECIAL ISSUE**  
学園通信 *Dynamic Academic*  
学生生活・キャリア形成・課外自主活動版

**2011** 多様な学生が学びあい成長する大学を目指して

# 多様な学生が学びあい成長する大学を目指して



立命館大学では、2万人以上が多様な課外自主活動に取り組んでおり、その豊かさにおいては日本有数の規模となっています。オリター・エンターや学生が大学のさまざまな部局のスタッフとして活動するなど、学生同士が支えあい学びあうピアサポート活動の質と量においては、他大学からも立命館らしい取り組みとして評価される到達点にあります。それに対して大学は、学生が課外自主活動を通して正課教育にはない学びを得ており、正課教育と相まって大学教育の目的を果たしていると感じて積極的に支援してきました。財政的にも、課外自主活動を含めて、学生生活全般にわたって、総額約19億円<sup>※1</sup>にのぼる奨学金を用意するなど、日本の大学の中で最高水準となっています。今後、立命館憲章に謳われた精神を発展させるため、キャリア形成、学生生活、課外自主活動とその支援をいかに展開させていくべきか、全学協議会を契機として全学で議論してください。

## I 正課・正課外を超えて育まれる学びと成長

### 立命館大学における正課外の自主活動の特徴

立命館大学は、さまざまな学問領域をもつ総合大学であり、全国から学生が集う全国型大学です。また、多数の国際学生が学び、多様な入試方式を通じてさまざまな優れた能力を有する学生が集っています。大学における学びは正課授業にとどまらず、キャンパス内外において、これらの多様な学生が、正課、正課外あるいは正課と連続した学びの場において、自主的に集団をつくり、共同し刺激しあう学びのコミュニティの中から生まれてきます。

本学では、約3万3千人の学生のうち、約50%が、大学が把握している課外自主活動に参加しています。大学の部局が組織している学生スタッフ、学生間の自主的集まりや大学外の団体などへの参加も考慮に入れば約70%の学生が何らか

の正課外の自主活動を行っています。学生は、正課外の自主活動によって、正課での学びに比して相対的に独自の能力を身につけています。各学部が実施している『学びの実態調査』によれば、正課外の自主活動は正課での学びと比較して、①企画力・行動力・応用力・積極性、②倫理性・社会性（対人関係や調整力）、③組織性、精神面での成長（耐性、自己肯定感）などを促進する点で、より積極的な役割を果たしており、総合的な人間力を形成するうえで重要な役割を担っていることが明らかになっています。スポーツや文化・芸術、ボランティアなどの課外自主活動は社会の成熟・発展を担い、社会的諸活動で地域・社会に貢献する人材を育成するうえで必要不可欠なものです。

学生の学びと成長は、正課での学びのみで達成されるものではありません。大学は、学びを正課・正課外を超えて展開されるものとして広くとらえています。正課外の自主活動が正課で学ぶための前提となる力を養成し、具体的な社会の現



実と向き合い実践しているからこそ、正課での学びが進むといえます。また、本学の正課外の自主活動は、組織的な取り組みが優れているという点でも特徴的です。本学の学生が、学外のさまざまな大学のサークルが集まった組織の事務局を担い、NPOなど社会をフィールドとした活動を行っており、こうした活動が社会的視野をもつことにつながっています。東日本大震災の復興支援では、学生が中心となって「311+Rnet」<sup>※2</sup>を作り、活動していることもそのひとつの現れです。ここに立命館の学生文化の育つ土壌、学生の成長の源があります。

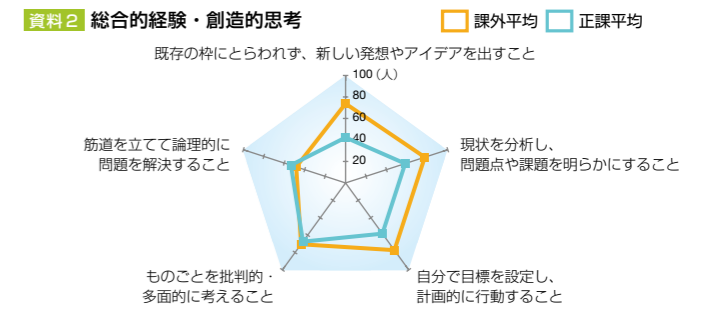
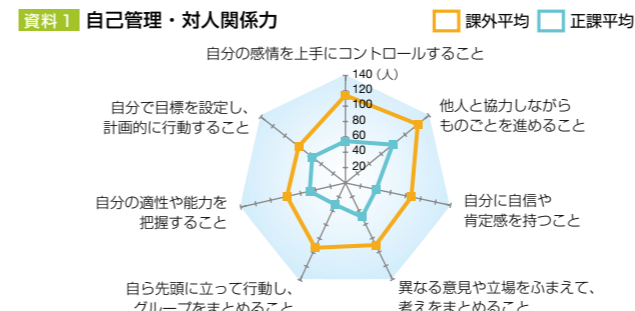
### 2 学生が成長する場面

学生が、正課のみでは得られない力を正課外の自主活動の中でどのように獲得しているのかを具体的にみてみましょう。青年期の学生は、意欲や学びのスタイルが少しのきっかけで大きく変わる特徴をもっています。正課外の自主活動は、自立した学習者として成長していく契機となり、ともすれば他者と関わりをもたないままになってしまう現代学生の気質の消極的側面を乗り越える力が

あります。多くの学生は、入学後、順調に歩んだのではなく、入学後、自分が主体的に行動していくために悩み、先輩、後輩、教職員、OB・OG、地域の人々など、他者と「係わる」ことを通して、一歩踏み出して、成長の契機をつかんでいます。また、リーダーシップを発揮して組織をまとめ、失敗を経験するなかで調整能力や人に意見を伝える力を身につけています。体育会などの組織を中心として、4年生で執行部を経験している学生は、問題解決力、他人の意見を受け入れる力、自分の考えを伝える力などが1～3年生と比較して伸びています。活動を継続することや他者との「係わる」こと

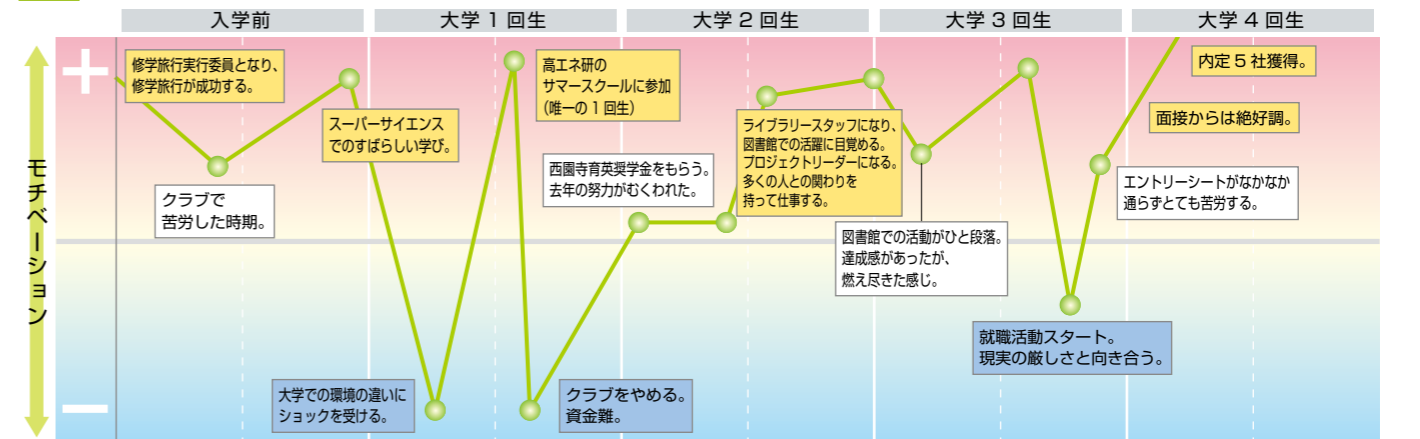
を通して、自立した人間へと成長をとげる、学生の学びの姿がみえてきます。学生は正課と正課外活動の両方を通じて、学び成長していきます。正課においても、従来は正課外の自主活動で行っていたような訓練や学びを組み込むことが増え、正課外の自主活動においても正課に連動した内容である場合もあり、両者はボーダーレスです。あえて正課外の自主活動を通じてこそ培うことのできる力があることを提示したのは、みなさんが正課外の自主活動に取り組むことで、切磋琢磨してグローバルな社会で活躍できるようになってほしいと考えているからです。

資料1 クラブ・サークルで身についた点<sup>※3</sup> 出典：2009年度『学びの実態調査』



※3 2009年度に、各学部で実施された『学びの実態調査』において、授業等を通じてどのような力が身についたかを質問しました。その中で、授業（正課）とクラブ・サークル活動を比較し、平均を出しています。

資料3 学生の成長の軌跡<sup>※4</sup>



※4 掲載した学生は、2011年3月に本学情報理工学部を卒業し、現在は社会人として企業で働いています。高校時代は、クラブや英語の学習に力を入れ、大学入学後は、紆余曲折を経験しながら、ライブラリースタッフや学習支援活動を経験して成長への一歩を踏み出しました。

※1 学生・大学院生、留学生への各種奨学金は、総額29億円となりますが、そのうち学部生を対象として執行されている額は19億円です。  
 ※2 東日本大震災の復興支援を行う学生の組織としてボランティアセンター、学生オフィスの協力で運営しています。

## Ⅱ 2007年度全学協議会以降の学生生活、キャリア形成、正課外の自主活動支援の到達点

本学では、学生生活全体、正課外の自主活動が学びの場であり、人間的成長を促し、将来を切り拓く力を培うことができる場であると位置づけています。こうした考え方に基づいて、教職員の支援、施設整備、財政支援などさまざまな支援をおこなってきました。2007年以降にすすめてきた学生生活、キャリア形成、正課外の自主活動への支援の到達点は以下のとおりです。

### ピアサポート<sup>\*5</sup>活動など 本学の特徴と強みを 活かした学生参加

1

本学のピアサポート活動のしくみは、学生の学習、学生生活、学生の自治的活動を支援するという伝統の中で育まれてきた立命館スタイルの学生参加による「学びのコミュニティ」づくりの活動です。これらの活動は、多くの部局、教職員のサポートによって運営されています。具体的な在り様は、学部ごと・取り組みごとに多様ですが、全体としては、各回生約1割の学生がこうした活動に関わり、他大学と比較して大きな特長といえます。

全学的支援は、オリター・エンター活動を始め際の研修を重視して取り組んできました。研修プログラムにおいては、学生部・各学部・関連諸機関、専門家（教員、医師、カウンセラーなど）との連携のもと実施しました。また、まとめ

と振り返り、次年度にむけた課題設定の機会として、オリター活動報告会の開催（2007年度・2009年度）、リーフレット発行（2009年度～）、『オリター・エンター活動報告書』発行（2010年度）を行いました。

### 豊かな キャンパスライフを 送るための取り組み

2

#### 1 特別なニーズを持つ学生を 支援するしくみづくり

障害学生支援や学生相談を拡充する中で、2011年4月、発達障害やその疑いがあり支援のニーズを持つ学生のために、正課を中心とした学生生活をサポートするための支援室を設置しました。支援室には、専門スタッフを置き、①大学生としての学びに支障をきたしている学生に対する、正課受講のサポートを中心とした支援、②大学生として成長するために必要なチャレンジができる支援、③学生、教職員、周囲の学生が、共に生活し、学びあう環境づくりを進める支援を開始しました。

#### 2 ハラスメントをなくす取り組み

2007年7月にハラスメントガイドラインを策定し、その後の改定を経て、ハラスメント防止、相談・解決体制の充実・強化をはかってきました。しかし、残念なことに2007年以降、学園として公表したハラスメント事案が複数件あり、学



友会・院生協議会連合会からは、再発防止にむけた徹底した教職員の啓発・研修、被害を受けた学生、大学院生のケア、教学上の影響を最小限に止めること等の要望が出されました。大学として再発防止の決意を新たにし、ハラスメントを起こさない環境づくりに努めます。

#### 3 2013年キャンパス全面禁煙化に むけた取り組み

2008年に2013年からキャンパス全面禁煙化に取り組むことを決定しました。学友会・院生協議会連合会から、具体化にむけたロードマップと方針提起を行うよう要望が出されました。2010年度から、禁煙化の事務局を学生部とし、各学部・保健センター・生活協同組合等と連携して2013年までの具体的な方針を掲げ、学生、大学院生、教職員にも理解を得ながら、すべての構成員の健康を守り、1人ひとりが大切にされる安全なキャンパスをつくるため、引き続き取り組みを強めます。

#### 4 薬物乱用防止の取り組み

2008年、関西四私立大学学長が共同で声明を出し、大学教育の課題として薬物乱用防止の取り組みを開始しました。新入生を中心に共同アンケート調査を実施しています。そこでは、薬物の怖さや法律上の問題点は理解しつつも、容易に入手できる環境があり、他者の使用には寛容な学生の姿も明らかになりました。学生、大学院生に対して、注意・啓発にとどまらず、倫理・人権など自立した学習者へと成長していくための教育をすすめます。

### 正課外の自主活動 活性化・高度化の推進

3

正課外の自主活動は、自ら組織・運営し、地域や社会ともつながる社会性を持った活動です。ボランティアや地域社会づくりの活動、学内スタッフ活動、クラブ・サークル活動など、本学での正課

外の自主活動は、幅の広さ、対人関係などのつながりの広さが特長です。学生たちは、国際協力事業学生実行委員会のインド洋津波災害復興支援活動、四川大地震復興支援活動、東日本大震災復興支援活動の取り組み、広報、学生FD、オープンキャンパス、ライブラリースタッフ、ボランティアスタッフなど学園内の事業活動・教育活動に学生スタッフとして関わる活動、地域での街づくりや防犯ボランティア、学校ボランティア、国際ボランティア活動など地域・世界をフィールドとした多彩な活動を行いながら大学での学びと社会をつなげ、成長しています。学術・文化芸術・スポーツの各分野では、世界レベル・全国レベルで学生が活躍し、他の学生や教職員など多くの人を励ましています。

このような活動が広がるよう、正課外の自主活動の活性化・高度化のために以下の整備をすすめました。（資料4参照）

#### 1 各種条件整備

各学部自治会が行った五者懇談会（教学懇談会、七者懇談会等）において、正

課と正課外の自主活動両立の視点から、5時限目に配置されている専門科目、必修科目配置について見直すよう改善要望が出され、いくつかの学部で時間割の改善が行われました。また、2007年度以降、「安全・安心」の視点から緊急な対応が必要である施設設備について、改修および年次計画化をはかり整備をすすめました。

キャンパス間を結ぶシャトルバスについては、2010年度まで年間のべ5万人が利用しました。2011年度から学生負担を伴わない形で運行拡充を行いました。

#### 2 スポーツ分野の支援の強化

スポーツ分野においては、2008年11月、新スポーツ強化政策検討委員会答申が出され、全学的な議論を行いました。ここでは「立命館アスリートモデル構築」の必要性が打ち出され、学園全体としてのスポーツ政策を推進する体制として、総長を議長とする学園スポーツ振興会議の常置が決定されました。

#### 3 正課外の自主活動を奨励する制度

正課外の自主活動を奨励する制度は、①研修支援金、②立命館大学・立命館アジア太平洋大学交流奨励金、③褒賞・顕彰制度（個人奨励金・団体助成金）など総額約2億円にのぼります。これらの制度を活用して、指導者招聘、強化合宿、国際交流などが活発に行われ、新たな活動



資料4 2007年以降の主な施設改修状況（学生関連のみ）

年度	場所	施設	整備内容
2007	BKC	グリーンフィールド	クラブハウス棟新設
		アスリートジム	ミーティングルーム改修
		アスリートジム	トレーニングルーム改修
		セントラルアーク	ドリームクロスラウンジ整備
		リンクスクエア	ミールショップ整備
2008	衣笠	アトリエ棟	電気配線工事
		柵野ホッケー場	人工芝張替え
2009	BKC	ユニオンスクエア	2階食堂改修
2010	衣笠	衣笠セミナーハウス	西園寺記念館への拡充移設
		第1体育館	1階へのサブウェイ出店
	BKC	衣笠セミナーハウス	二重窓化
		学生会館	畳張替え
2010	BKC	諒友館	地下食堂プロジェクター・モニター設置
		セントラルアーク	ドリームクロスラウンジ音響改修
2010	BKC	フォレストハウス	出入口および階段改修

\*5 本学では、学生生活支援-オリター・エンター、学習支援-ES・TA、キャリア支援-PL・JA（※9 P.11）、国際化関連-留学アドバイザー・TISA、図書館-ライブラリースタッフ、情報関連-レインボースタッフ、ボランティアスタッフなど、大学を構成する学生、教職員がそれぞれの役割と立場から相互に共同し学生支援に学生が参加・参画するしくみがあります。

の創出、活動の高度化につながりました。  
(資料5、6参照)

また、2010年度は、学園創立110周年にあたり、全学生を対象として、「創立110周年学生企画」を行いました。地域・社会貢献、学生や学園のアイデンティティ形成への寄与等5つのテーマで募集し、応募51件の応募があり、14企画が採択されました。いずれも、従来から大学が支援してきた正課外の自主活動を超える多彩な活動が提案されました。(資料7参照)

資料5 奨励制度の概要

名称	内訳	金額
研修支援金<7,100万円>	一般出願	5,300万円
	チャレンジ出願	
	グローバル出願	1,500万円
	学生研修プログラム	300万円
団体助成金	顕著な成績を残した団体を表彰	4,100万円
個人奨励金	顕著な成績を残した個人を表彰	400万円
校友会奨学金	世界・日本のトップレベルの個人を表彰	500万円
学生スポーツ・文化等活動援助金	課外活動の遠征、高額備品購入等を補助	4,080万円
立命館大学・APU 学生交流プログラム 課外活動交流奨励金	両大学の交流の促進	2,000万円

資料7 110周年企画で行われた主な企画

企画名	主な学部/団体	団体名	企画名	主な学部/団体	団体名
スポーツごみ拾い	BKC登録団体(スポーツ)	cubes	R∞p(ループ)	BKC登録団体(環境問題)	Reco.lab
大学生による「京都の魅力」発見・発信プロジェクト	産業社会学部	立命館大学 外国人観光プロジェクト	Rits 日本列島はみだせ音楽園祭 ～限らない草原へと踏込む人に～	有志団体	mov E 》
映像で訴える (Webムービー制作プロジェクト)	映像学部	GREENS	キャンドルナイト ～あったかい夜をつくらう～	学芸系団体・衣笠登録団体 (ボランティア)	衣笠キャンドルナイト 実行委員会
カモシネマ6【夏の鴨川座】	学術系団体	立命館大学広告研究会	覗きカラクリで見る、新たな地域	映像学部	GO
ダンスマイスタイル!	衣笠登録団体(表現系)	舞スタイル	学園歌普及計画	中央事業団体・学芸系団体	学園歌普及委員会
Cross2010	BKC登録団体 (国際交流・協力)	日中学生交流団体 freebird	フォージャーナリスト久保田弘信と 「平和」について考える1週間	学生会	全学自治会平和委員会
BKC 3リーグ連携企画	BKC登録団体(スポーツ)	BKC3リーグ連合	ごみ革命2010	理工学部	環シスごみ騒動

資料6 2007年以降の課外自主活動の主な活動状況

区分	団体名	年度	戦績など
研究・ものづくり系	立命の家実行委員会	2007～	研究・ものづくり系の8団体による近隣の小学生対象の科学体験学習企画を開催し、10周年を迎えた。
	探検部	2010	日本洞窟学会第36回大会 ポスター賞(高知県壱穴洞窟発掘調査)
	考古学研究会	2008	松尾山古墳群の発掘調査で廃寺を発見
	証券研究会	2009	全日本証券セミナー大会 優秀賞
	法友会	2010	関西年間総合 優勝 全日本学生法律討論会 立論の部 5位、質問の部 3位
	飛行機研究会	2010	第33回鳥人間コンテスト プロペラ機部門 出場
	情報理工学部プロジェクト団体 「ロボカップ・シミュレーション部門(Ri-one)」	2010	RoboCup 2010 Singapore レスキューシミュレーションリーグ 4位
	ベンチャー・ビジネス・コミュニティー (VBC)	2008	本学・同志社大学主催のビジネスプランコンテストで優勝し、企業と商品開発をおこなうことで、社会的に高い評価を受けた。
	GREENS	2009・2010	GAZBY・学生CM大賞 奨励賞
	Innovation	2010	Global Tic 2010 テクノロジー部門 優勝
文化・芸術系	応援団吹奏楽部	2010	関西吹奏楽コンクール 金賞 第58回全日本吹奏楽コンクール 銀賞
	応援団チアリーダー部	2009	2009ジャパンカップ チアリーディング日本選手権大会 10位 第21回 全日本学生チアリーディング選手権大会 6位
	RBC	2009	第26回NHK全国大学放送コンテスト 映像CM部門 1位、テレビドキュメンタリー部門 2位
	囲碁研究部	2009	第51回全日本大学囲碁選手権大会 準優勝
	将棋研究会	2010	第41回全日本学生将棋団体対抗戦(学生王座戦) 優勝 第23回リコー杯アマチュア将棋団体日本選手権 優勝
	競技ダンス部	2008	第53回全日本学生競技ダンス大会 団体総合 6位
	JAZZ CLUB	2010	第41回YAMANO BIG BAND JAZZ CONTEST 18位
	メンネルコール	2010	第63回全日本合唱コンクール 銅賞
	バトントワリング部	2010	第30回世界バトントワリング選手権大会 優勝
	かるた会	2010	第17回全日本大学かるた選手権大会 団体戦の部 優勝 第94回全国職域学生かるた大会A級 優勝
	珠算部	2010	七夕そろばんワールド2010 優勝
	dig up treasure	2009	18th Annual DOUBLE DUTCH HOLIDAY CLASSIC 準優勝
	京都チーム「櫻嵐洛」	2010	第57回よさこい祭り全国大会 優秀賞「蒙」

キャリア形成支援の到達点と課題

4

大卒求人倍率は、2008年秋のリーマンショックによって急速に悪化し、2011年春に卒業した学生は1.28倍にまで低下しました。一方で、2011年度は「グローバル採用元年」と呼ばれるほど、国境を超えて優秀なグローバル人材を確保する動きが強まり、外国人留学生や海外の大学生への注目が高まっています。

進路・就職支援政策を進めるにあたっては、「3つの基本目標と課題」、「3つの重点目標と課題」を掲げました。基本課題は、①進路決定率の向上に向け、

社会人として必要な力量形成支援とブレイクサービスの実施、②優良企業(Top150社指標)および公務員・教職への輩出向上のため、学部・研究科の教育目標に沿った新たな指標の設定と、公務員・教職受験母体層の拡大に繋がる支援の強化、③卒業生を含めたキャリア支援のため、就職後の定着支援と女子の生涯に渡るキャリア形成を意識した就労支援の強化。重点目標は、①難関分野(司法、公認会計士、国家公務員I種)の試験合格と就職実績の向上、②大学院のキャリア政策と飛躍的な進路・就職実績の実現、③世界を舞台に活躍する人材輩出です。

結果として、本学の過去4ケ年の就職決定率は、92～96%と安定的に推

移し、文部科学省・厚生労働省が発表した2011年3月卒業生の就職内定率(91.1%)と比較しても健闘しています。著名企業223社への採用実績は他大学比較で見ても、全国3～6位の位置を維持しています。地方公務員については、全国第2位の実績を上げています。大学院生へのキャリア形成支援は、「キャリアデザイン演習」プログラムを開講し、特に前期課程大学院生の就職支援を強化してきました。一方、難関分野を目指す学生への支援として取り組んできた、新司法試験や国家公務員I種試験の実績は、2007～2008年度をピークに減少傾向にあり、高い目標にチャレンジするためのさまざまな支援を強める必要があります。

区分	団体名	年度	戦績など
スポーツ	アメリカンフットボール部	2008 2010	アメリカンフットボール日本選手権第62回ライスポウル 勝利 日本一 全日本大学アメリカンフットボール選手権決勝 第65回毎日甲子園ポウル 勝利 学生日本一
	カヌー部	2007～2009 2010	全日本学生カヌー選手権大会 男子3連覇 アジア競技大会 男子カヤックペア 1000m 日本代表 銅メダル
	弓道部	2007 2008 2009 2010	全日本学生王座決定戦 男子団体 優勝 全日本大学弓道選抜大会 男子団体 優勝 全日本学生選手権大会 女子団体 優勝 全日本学生王座決定戦、全日本学生選手権大会 男子団体 優勝
	硬式野球部	2007 2008	全日本大学野球選手権大会 出場 明治神宮野球大会 ベスト4
	ゴルフ部	2008	全国女子大学ゴルフ対抗戦 優勝
	サッカー部	2007	ユニバーシアード大会 男子日本代表選出
	男子陸上競技部	2008 2009	出雲全日本大学選抜駅伝 7位 出雲全日本大学選抜駅伝 6位
	女子陸上競技部	2007 2007～2008 2009 2010	ユニバーシアード大会 女子5,000m日本代表 5位 全日本大学女子駅伝 連覇、全日本大学女子選抜駅伝 ユニバーシアード大会 女子5,000m日本代表 7位 日本学生陸上競技選手権大会 女子10,000m優勝、国際千葉駅伝 日本学生選抜 優勝
	重量学部	2007	全日本大学対抗女子ウエイトリフティング選手権大会 4連覇
	柔道部	2009 2010	フランスジュニア国際大会 女子52kg級日本代表 優勝 全日本学生女子体重別選手権大会 70kg級 優勝 全日本学生柔道体重別団体優勝大会 女子3位
	水泳部	2010	シンクロワールドカップ 日本代表 3位 アジア競技大会 シンクロナイズドスイミング日本代表 デュエット 銀メダル、チーム 銀メダル アジア競技大会 高飛び込みシンクロ 日本代表 4位
	スキー部	2008 2010	ユニバーシアード冬季大会 アルペン女子日本代表 総合5位 ユニバーシアード冬季大会 女子大回転日本代表 6位 男子回転日本代表 出場
	相撲部	2008 2007～2009 2010	世界相撲選手権大会 軽量級 優勝 全国学生相撲個人体重別選手権大会 85kg級 3連覇 世界相撲選手権軽量級 3位
	卓球部	2008	全日本学生卓球選手権 女子シングルス 優勝、女子ダブルス 優勝
	ホッケー部	2008 2009 2009～2010	全日本男子ホッケー選手権 優勝 ホッケーチャンピオンズチャレンジ2009 女子日本代表 選出 全日本大学ホッケー王座決定戦 男子連覇、国民体育大会 京都府代表単独チーム 男子連覇
	ヨット部	2008	全日本学生女子ヨット選手権大会 総合優勝
	BKC フットサルリーグ運営委員会	2010	フットサルサークルに所属し、小学生を対象とした第1回立命館招待フットサル大会、夏休みフットサル教室を開催し、地域貢献活動をおこなっている。
	windward	2009	全日本学生ボートセイリング選手権メンズクラス 優勝

## 5 本学独自奨学金制度の充実と学生の学びと成長の支援

本学独自の奨学金制度は、経済支援型奨学金と「学生の成長を支援する」育英奨学金からなっています。2011年度は、総額約19億円が学生生活の学びと支援のために使われています。(資料8参照)

育英型奨学金は、正課での学びをサポートするとともに、正課外の自主活動のレベルアップや調査活動を支援する制度として正課・正課外の幅広い学びを対象として支援しています。経済支援型奨学金は、経済状況の悪化を受けて、2009年度より予算を3.2億円から6.2億円(採用枠に換算して700名増)へ緊急拡充しました。その結果、2009年度と2010年度の2年間は、出願者のうち、出願基準を満たした学生全員が奨学金を受給しています。さらに、2011年度からは出願にあたっての経済基準を緩和したことにより、出願者数が増加(前年比1.6倍)し、従来は出願資格がなかった学生も採用されました。(資料10参照)

## 6 「人が育つキャンパスづくり」をめざした整備

2008年度以降、学生・大学院生の参加によるBKCキャンパス整備プロジェクトを実施してきました。2010年度は学友会の主体的な取り組みとして両キャンパスで整備プロジェクトを行い、財務部や専門分野の教員、生活協同組合等のアドバイスも得て、提案を行い、学内外の関連機関との協議を行いました。現状

やニーズ把握のための調査活動、問題点の整理と具体的な改善策を立案し、全学への報告を行いました。学生自身が参画して、大学で学び、活動する学生の目線で、豊かなキャンパスライフ、学生相互

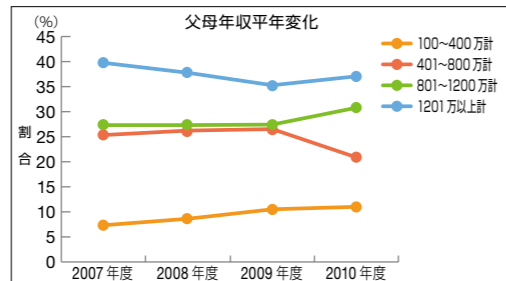
の学びとコミュニケーションの促進、主体的な学びの実現などの視点から提案を行い、以下のように積極的に施策に反映されています。(資料11参照)

資料8 本学独自の奨学金制度(現行)

経済支援型奨学金		育英型奨学金		学生支援資金(経常費で通用する)	
在学時経済支援	504,000	入試優秀者	189,573	オリター援助金	5,000
入学時経済支援	117,500	正課(西園寺)	365,645	1回生クラスリーダーキャンプ(FLC)援助金	10,000
		正課(西園寺大学院進学)	68,400	学生スポーツ・文化等活動援助金(用具費・遠征費等)	40,800
		正課(APU交流)	20,000		
		資格・能力取得	25,000		
		国際(派遣)	332,300		
		国際(受入)	72,000		
		課外(入試優秀)	33,400		
		課外(研修支援)	71,000		
		課外(団体・個人褒賞)	45,000		
		課外(APU交流)	20,000		

※6 現在の奨学金制度の枠組みは1999年度全学協議会において総合学生援助政策の一環として決定された育英型奨学金が基本となっています。その後、修学奨励奨学金、緊急入学時給付奨学金などの経済支援型奨学金を充実されてきました。

資料9 父母年収(世帯主年収平均)の推移 出典:新入生父母アンケート



※7 本学では、毎年夏に新入生父母に対し、無作為抽出方式によるアンケートを実施し、父母の経済状況を把握し、奨学金や学生生活支援策に反映させています。

資料10 修学奨励奨学金受給者推移(人)

年度	新入生	在学生	合計
2007	130	375	505
2008	251	500	751
2009	296	500	796
2010	309	759	1,068

資料11 学生が参加・参画して実現した取り組み

年度	場所	プロジェクト概要	プロジェクトの提案と実施状況
2008	BKC	①飲食・物販整備 ②自然緑地整備 ③緑地広場整備	3つの整備ゾーン毎にアンケート調査、他大学調査・分析を行い、報告会を実施。
2009	BKC	①自然緑地の活用 ②キャンパス緑化 ③交通アクセス改善 ④飲食・物販機能の向上	①地域開放型の調整池等緑地活用提案 ②キャンパス内空間の有効活用によるアメニティ向上提案 ③バスダイヤ等の改正の実現 ④南草津駅への新快速停車(2011年3月より実現) ⑤ランチストリート計画(2011年4月より実現:6店舗が出店)
2010	BKC	①学びの居場所 ②憩いの居場所 ③安全・安心キャンパス	①キャンパス創造論議への反映 ②上に同じ ③教室階段改修の実現
2010	衣笠	①交通アクセス ②食環境改善	①バスダイヤ改正、駐輪場増設の実現 ②ベンチ増設、昼食時間帯教室開放の実現

## III 学生生活・キャリア形成・正課外の自主活動の質向上と学生支援

### R2020計画 前半期における 学生支援の方向性

R2020計画前半期における学生支援は、①一人ひとりの成長と集団(コミュニティ)の中での成長を連関させた支援をすすめる、②すべての学生が何らかの自主活動に参加し、活動のいっそうの高度化と活性化をはかる、③スポーツ活動を通じた学びと成長を実現する、④自らのキャリアを生涯に渡って形成する能力を身につけるために学部教学、総合大学における正課・正課外を超えた学びと成長の視点からのキャリア形成支援をすすめる、⑤全ての学生の学びと成長を支える総合的な視点からの奨学金制度の整備を行う、⑥アメニティ向上を含む学びと成長を支えるキャンパス整備をすすめることを重点とします。

### 質の高い学びのコミュニティ形成にむけた支援

学びのコミュニティの質を高めるためには、正課教育とともに、正課と関連する、さらにはそこから広がっていく学びの場の形成が求められます。具体的には、学部における正課外の学びの場、学部を超えたテーマでの学びの場、教育寮における学びの場、地域や世界での学びの場、附属校と大学の連携による学びの場など

です。そこでは、本学の特徴であるピアサポート活動を展開させ、学生相互の学びあい、教職員、社会の人々の支援によって学生が成長するしくみをつくります。

今日の社会において、若者が置かれている状況は複雑で支援の課題も多様です。大学は、自らの行動に自覚と責任を持ち、主体的学習者として成長していくための基本的能力を培う支援、総合的人間力を育成するための支援、自立した学習の習慣づけを促進するための支援を充実させます。同時に、個別学生のニーズにあった学生生活設計が行えるよう支援を総合化し充実させます。さらに、学園として共有できる教育・人材育成目標とその実現にむけた実践のために、学園憲章で謳われた教育理念を具体化した学びのプログラムを充実させます。

### 国際学生と多文化共生キャンパスの実現

グローバル化した時代を生きる力を身につける学生の育成を目指し、国際学生・国内学生がともに学び生活するなかで成長するしくみをつくります。具体的には、①小集団での学びを通じたつながりづくり、②立命館でその学びの提供(教育理念を具現化した正課外プログラムの実施等)、③国際教育寮の建設、④国際学生、国内学生が集える空間の設定、⑤異文化理解・異文化コミュニケーションのためのコミュニティづくり、課外プログラム、

自主的学びの創出、⑥留学アドバイザー、国際学生チューターの高度化・連携・相乗効果(英語対応を含む)、⑦進路・就職支援、⑧受入れた国際学生、校友とのネットワークの強化。また、異文化カウンセリング制度、国際学生の学習・学生生活環境の充実、学生同士の支援体制など一人ひとりの学生への支援を強めます。

### 一人ひとりの学生の主体的学びと成長のしくみとしての正課外の自主活動の発展

全学生が何らかの自主活動に参加し、自主的な「学び」に取り組み、学内コミュニティ交流・学びあいを促進するための支援を行います。地域、世界をフィールドとした活動を重視し、国際学生とともに地域交流・社会連携、国際交流・連携の活化をはかります。東日本大震災復興支援ボランティアへの支援をはじめ、ボランティア活動への支援を進めます。また、課外自主活動の高度化のため、研究・ものづくり・制作、文化芸術、スポーツ、社会的活動の諸分野で国内・世界水準の活動を創出し、活動を通じて学生が社会に有為な人材として成長し、社会の発展に貢献することを目標に支援します。



※8 正課における「学びのコミュニティ」づくりについては、「学園通信」教務版「学びのコミュニティ」のなかで主体的な学習者に「」で詳しく書いていますので、あわせて読んでください。

**1 マルチキャンパスのもとでの正課外の自主活動を発展させるための基盤整備**

マルチキャンパスでの学生生活を展望して、①課外自主活動へ参加しやすいしくみをつくる、②課外自主活動を行う学生たちが相互に交流し、拠点となる基本施設を整備する、③活動の活性化と発展の基礎となる人的支援・財政的支援・施設条件を整備する、④キャンパス間を移動して活動が行える教学的しくみを整備する、⑤キャンパス間をつなぐシャトルバスなど交通アクセスを整備する、⑥立命館大学の一員としてのアイデンティティを醸成するためのしくみをつくる、⑦これらを促進するための学生生活・正課外の自主活動を支援する体制を抜本的に整備することを検討します。

正課外の自主活動の活性化を図りながら「安心・安全」の競技・諸活動の環境整備をすすめるとともに、学生、父母、校友などを励まし、学園のアイデンティティを醸成する施策に積極的に取り組みます。

**2 スポーツ活動を通じた学びと成長、学生の健康づくりに配慮したキャンパスの実現**

各キャンパスを「心身の健全な発達と豊かな人間性を培う場」として位置づけ、学内外でのスポーツ活動とふれあいを通して、それを実現するための機会を積極的に創ることが求められます。各キャンパスには正課授業を行うための体育施設・運動設備が必要ですが、キャンパス

内で学生が気軽にスポーツに親しむことができる空間・条件の確保が必要不可欠です。

**3 重点強化クラブ等の設定**

正課外の自主活動を行う団体に対する合理的で適切な支援を行うことを前提としつつ、文化芸術活動などクラブ・サークル活動高度化政策、スポーツ高度化政策に基づき支援の高度化に取り組めます。

重点強化クラブ等の設定基準は、①大学・学園の多くの構成員から支持と理解を得ることができものであること、②地域・社会の発展に貢献できるものであること、③これまでの活動の到達点をふまえて、学生の学びと成長に寄与するものであること、④他の学生に積極的かつ有益な影響を与えるものであることを視点とします。

重点強化クラブは、①指導者体制の充実による人的支援、②競技や活動施設、合宿所等の整備・充実、③「学修と競技、活動の両立」の視点から最適の練習場、活動施設配置やアカデミックスキル教育などを検討し支援する、④クラブの運営経費や大会、コンクールへの参加の際の援助金等の財政支援、など支援を充実します。

重点強化クラブ等の設定にあたっては、競技や活動の特性や活動レベルによって強化する手段や方法は異なり、そのクラブに合った支援を検討します。

自らのキャリアを生涯に渡って形成する能力を身につけるためのキャリア形成支援

5

キャリアセンターでは、昨年度「包括的進路・就職支援政策」を提起しました。ここでは、生涯にわたって自らのキャリアを形成する能力を在学中に身につけるため、学生生活の幅広い経験に基づく目標設定や、自分が成し遂げたこと、苦勞したことを振り返り、問題を見つける力を身につけることが重要であり、正課・正課外の両面を通して養うことが重要であると指摘しました。また、包括的に支援策を展開することとし、各学部・研究科や学生、大学院生の支援を行う各部署とキャリアセンターは、これまで以上に連携を強化し、進路・就職支援が、就職活動支援にとどまらず、学生、大学院生の大学生生活全般にわたるキャリアプランニング能力形成、キャリア教育の支援と位置づけます。

具体的には、以下を重点として取り組みます。①難関分野を目指す学生への支援強化、②国境を超えて活躍するグローバル人材の育成支援、③日本全国のあらゆる地域における就職支援の強化、④卒業時無業者や就職困難層、難関分野を目指した後に進路変更を行った再チャレンジ層への支援、⑤低回生時からのキャリア開発支援、⑥初年次からの小集団等でのキャリア教育、⑦大学院のキャリア形成支援、⑧附属校・接続校と連携したキャリア教育支援、⑨学部・研究科・部局との連携強化に向けた体制構築。

厳しい就職環境にあって、孤立して就職活動を行うのではなく、本学の強みである「ステューデントネットワーク・PL (プレズメント・リーダー)、JA (ジュ

ニア・アドバイザー)、CA (キャリア・アドバイザー)」制度<sup>※9</sup>を有効に活用していくための支援も強化します。

安心して学び、正課・正課外を超えた活動を応援する新たな奨学金制度の具体化

6

2012年度からの奨学金制度は、①正課・正課外の枠を超えた総合的な学習者支援の枠組みとする、②学習者を「個人」と「集団」の2つの側面からとらえる、③支援の枠組みを「経済支援」と「成長支援(育英)」の2つの側面からとらえる、④学生の学びのコミュニティ形成を支援する、⑤経済支援奨学金の比重を高めることを柱とすることを決定しました。この基本方針に基づいて、2011年度前半期までに詳細設計を行います。制度の詳細設計にあたっては、学生のみなさんからの意見・要望をふまえ、学生が安心して学

び、新たな活動にチャレンジできるしくみとして具体化します。(資料12参照)

アメニティ向上を含む学びと成長を支えるキャンパス整備

7

構成員の知的対話と活動がすすみ、安心して生活できるアメニティ空間の確保は、学生の学びやコミュニティづくり、学生どうしの学びあいを基礎にした自主性や自治的な力をはぐくむうえで重要です。①学生が集い交流できるエリアの創出、②目的意識的にクラブ活動や自主的な活動を支える場としての「スチューデント・commons」<sup>※10</sup>的な施設や体育会の高度化を保証する整備、③全ての学生が心身ともに健康にキャンパスライフを送るための施設・設備条件としての憩いの場、スポーツ施設の整備、充実、④安全・安心の観点から防災を重

視した施設・設備の整備、充実を図ります。さらに喫緊の課題として、食環境の整備、駐輪場や交通アクセスなどの整備を進めます。

学生、院生の参加・参画による大学、学園づくりの新たな展開

8

全学協議会をはじめ各学部・研究科における学生・大学院生との協議は、大学・学園づくりに大きな役割を果たしてきました。また協議の前提として、財政や第三者評価などの公開も進めてきました。学生・大学院生の活動は多様な広がりを見せ、そこから生まれるニーズも多様になっているとともに、新キャンパス展開によるマルチキャンパス化も見据え、現在の協議の仕組みを発展させていきます。

大学・学園づくりの特定の領域に対して、「キャンパス整備プロジェクト」の活動のように学生・大学院生が積極的に関わり、教職員や社会との相互作用の中で課題を解決することによる取り組みも進んできました。こうした活動は、大学をつくる取り組みへの積極的な参加・参画であり、他者とともに知的に行動し、社会をつくる主体的な人間として成長する機会でもあります。

また、多面的に展開する学生・大学院生の活動に対して、大学の支援体制も包括的であることが求められます。今後、マルチキャンパスのもとで、教職員の支援の力量養成も含めて、体制の抜本的な改革、整備を図っていきます。

資料12 2012年度からの新たな奨学金・助成金制度(概要)

		(単位:千円)		
経済支援型奨学金	個人	入学時(個人)	90,000	10.1億円
		受験前予約採用(個人)	220,000	
		在学時奨学金(個人)	602,000	
		修学奨励奨学金	30,000	
		国際社会での学びと成長支援(個人)	70,000	
成長支援型(育英奨学金)	個人	正課での学び(個人) 西園寺奨学金	220,000	7.1億円
		学びの相互支援活動(個人)	39,000	
		アスリート・クリエーター育成[入試]	34,000	
		アスリート・クリエーター育成[在学生]	20,000	
		資格・能力取得(個人)	20,800	
多様な学びと成長助成金	集団	国際社会での学びと成長支援(個人) 留学生受入(個人)	303,300 72,000	1.9億円
		正課外活動活性化・高度化支援	120,000	
		学園交流・国際交流支援	35,000	
		学びのコミュニティ形成支援	20,000	
研究・ものづくり活動支援	10,000			
顕彰	団体個人	顕彰・表彰(個人・集団)	5,000	

※9 PL(プレズメント・リーダー)は3回生の各ゼミの進路・就職の連絡、企画を行う担当学生。JA(ジュニア・アドバイザー)は、進路が決定した4回生以上の学生で、後輩の進路・就職活動を支援する学生。CA(キャリア・アドバイザー)は、卒業生で、後輩の進路・就職活動を支援する若手OB・OG。

※10 正課外の自主活動の交流、創出のために、学部の枠を超えて、学生どうし、教職員と学生が知的に刺激しあいながら活動できるオープン空間・施設のことをスチューデント・commonsと呼んでいます。

